

地域を変える

POWER!!

地域おこし協力隊 ユディカエルギヤントさん



田植え

有機野菜作りと水稻栽培挑戦へ

春から夏にかけて気温が上がり、農作物が栽培しやすい季節になりました。前年度から加工食品原材料としての栽培を行いながら、インドネシア料理の為の野菜も少しずつ作りました。昨年秋にキャベツ、レタス、玉ねぎ、パクチーなど種蒔きし、今春有機作物が出来て嬉しかったです。収穫までには虫被害や獣害問題もあり、コンパニオンプランツの方法と他の対策を農家さんと相談しながら植物の成長を一つ一つ確認してきました。

今年3月から夏野菜の種まきも始め、4月に定植をしました。また、野菜と加工食品開発の原材料だけではなく水稻栽培の挑戦をしたいと思い、昨年度にポット植えや陸稲で栽培した稲の種で、種まきを実践しました。同時に土づくりから代かき作業を岸良だけではなく町内の農家さんと相談しながら行っています。今回栽培している米はタイ米、うるち米ともち米です。持っている陸稲米類は、詳しく調べてみると水稻での栽培も可能であることがわかりましたので水稻で栽培を試しています。

これから田植えの後に水管理や病気や虫などの色々な管理があるかと思います。初めての試みですが、町内の農家さんと相談しながら頑張っていきたいと思います。

アメリカの子どもたちは、約3か月の長期休暇があることを知っていますか？アメリカでは、8月から翌年の5月または6月までが開校期間なので、次の学年が始まるまでの期間は学校が休みとなります。またこの期間に、子どもたちは宿題等の課題を課せられることはありません。では、子どもたちはこの長期休暇をどのように過ごすのでしょうか？アメリカの子どもたちの多くは、サマーキャンプに行きます。一般的なサマーキャンプは、他の地域の子どもたちとキャビンで寝泊まりし、ハイキング、水泳、カヌーなどのアウトドア活動や、キャンプ工芸品を作ったり、マシュマロを焼いたりなどの体験をします。他にも学術、スポーツ、音楽、宗教のためのキャンプもあります。また、日帰りの場合もあれば、週末（2～3日）や数週間など、キャンプによって期間も様々です。私は幼い頃、



▲ハイキング
Photo by Jack Cohen

毎週のように、日帰りのキリスト教のサマーキャンプに参加し、歌を歌ったり、宗教の勉強をしたりしました。中学生のときは、日帰りの科学・海洋生物学のキャンプや2週間の音楽キャンプにも参加しました。私の一番好きなサマーキャンプは、中学校2年生から高校2年生まで毎年参加した学術的なキャンプです。3週間ごとに、私は他の子どもたちと一緒に寮に泊まり、心理学や作文を学びました。このような夏の体験は、多くのアメリカ人にとっても懐かしいものです。皆さんもアメリカのサマーキャンプに参加してみたいでしょうか。



▲キャンプファイアー
Photo by Jack Cohen

CIR (文化編) キャサリンの お国自慢

今回は、「Summer camp (サマーキャンプ)」について紹介します。



肝付町 CIR のインスタグラム・LINE でイベント情報などアップしています！
フォロー・いいねよろしくお願ひします！



Instagram



LINE